



イラスト・題字：長峯亜里

11月3日のアメリカの中間選挙では連邦議会下院の全435議席と上院100議席中の35議席が改選される。焦点は上下両院での勢力図だが、民主党の在り方にも注目が集まっている。

共和党が伝統的保守派の党から理念も価値観も全く異なる、いわば「トランプ党」に変身したように、今、民主党も非主流の極端な思想が優勢する党に変わる可能性がある。

共和党の変貌

共和党は突然今日のような「トランプ党」へ変貌したわけではない。民主党のオバマ大統領の一期目、共和党は民主党の長年の懸案であった医療保険制度改革（いわゆるオバマケア誕生）を阻止できず、党主流派が選んだ大統領候補では選挙に勝てずに、第二期オバマ政権を許した。

主流派への憤懣^{ふんまん}がたまり、オバマ政権初期に生まれた「ティーパーティー（茶会）」運動が反体制的なエネルギーを解き放った。共和党支持者たちは、たとえ既存の規範を破ることになっても、権力を効果的に行使するには主流派はあまりに弱腰だと見なし反発を強めていった。

第二次オバマ政権中の中間選挙でその怒りが爆発した。下院共和党のNo.2だったエリック・キャンター院内総務がバージニア州の予備選で新人の茶会候補に敗北した。そしてこの反主流

派機運にのり、1年後にドナルド・トランプ氏が大統領選挙への出馬を表明した。

トランプ大統領の一期目には財政保守という共和党の伝統が崩れ、二期目前までには党内で強硬右派の力が増し、民主党との一切の妥協を許さなくなっていた。既存の規範を壊し、体制への反発を推奨し、相いれない人を容赦なく攻撃するトランプ大統領が党を完全に掌握するようになった。



「ヤング・ガンズ」と呼ばれた共和党の主流派リーダーたち（キャンター：中央）は、いずれも「党のトランプ化」で政治生命を絶たれた
（『Young Guns: A New Generation of Conservative Leaders』2010年9月発行）

民主社会主義の台頭

共和党支持者の怒りが表面化したのが、キャンター院内総務の敗北だったとすれば、民主党の変化は昨年11月のニューヨーク市長選で明らかになった。

ゾーラン・マムダニという33歳のインド系イスラム教徒が、家賃の凍結、市営バスの無料化、一律保育サービスの提供、それらを可能にするために富裕層への増税、と民主社会主義を掲げ



ゾーラン・マムダニ
ニューヨーク市長
（第112代）